書評『新型タバコの本当のリスク―アイコス、グロー、プルーム・テックの科学―』（著者：田淵貴大）

栗岡成人　京都博愛会病院　内科顧問、タバコフリー京都理事

「新型タバコ」に関する待望の一冊が出版された。新進気鋭の公衆衛生研究者、大阪国際がんセンターの田淵貴大先生が上梓された『新型タバコの本当のリスク』（内外出版）。最新のエビデンスにもとづいた新型タバコのすべてともいうべき本である。

定価：本体 2,200 円（＋税）
仕様：四六判／並製／モノクロ／本文224頁
ISBN：978-4-86257-445-9

発売日：2019 年 3 月 12 日
https://amzn.to/2N5jYaF

始めからじっくり読んでもよいし、自分に関心のあるところから読んでもよい。拾い読みをしても十分情報が得られる。

新型タバコの特徴がタバコ会社のデータも含め、科学的根拠に基づいて客観的に記述されていて信頼できる。「日本人が加熱式タバコの実験台になっている」という衝撃的な事実の理由がこの本を読めば理解できるだろう。

タバコ会社は「有害物質がほとんど出ないから安全」とか「煙がでないから受動喫煙はない」とかいうけど本当のところはどうなのか？　みんなが抱く疑問を、「加熱式タバコにまつわる 10 の疑問」として、本書全体で、現時点では最良の回答が用意されている。

本書にはさまざまな仕掛けがあるが、新型タバコをとおしてタバコ問題全体が理解できるように書かれている。タバコに含まれる有害物質や、喫煙・受動喫煙による健康被害についてはもちろんのこと、人の幸せを奪うというニコチン依存症の本質がしっかり書かれている。第４章のタバコ会社のマーケティング戦略を読むと、なぜ日本でタバコ規制政策が進まないのか、どうして新型タバコが日本でブレークしたのかが良く理解できる。著者の専門とする疫学の考え方についても、タバコ問題に沿って理解しやすく解説されている。電子タバコやハームリダクションについても著者の考えを交えて言及されている。

補足コラムも充実していて、それぞれが読ませる内容である。例えば、「燃焼ではなく加熱？　正確にはそうでもない」は評者も「ああそうなのか」と納得した。また、図表一覧や索引も親切である。引用文献、参考文献も豊富で、もっとタバコのことを知りたいという人にはよいテキストになるだろう。

喫煙者や禁煙支援者、行政など様々な立場の人に呼びかけるメッセージもユニークである。この本全体から、タバコによる悲しみや苦しみを少しでも減らしたいという著者の熱意が立ち上ってくるようである。

新型タバコを利用している人、医療関係者には必読の一冊。そして拡がってしまった新型タバコ問題に否が応でも巻き込まれてしまう、すべての人にお勧めしたい。